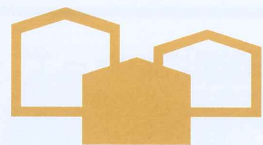


重監房資料館だより



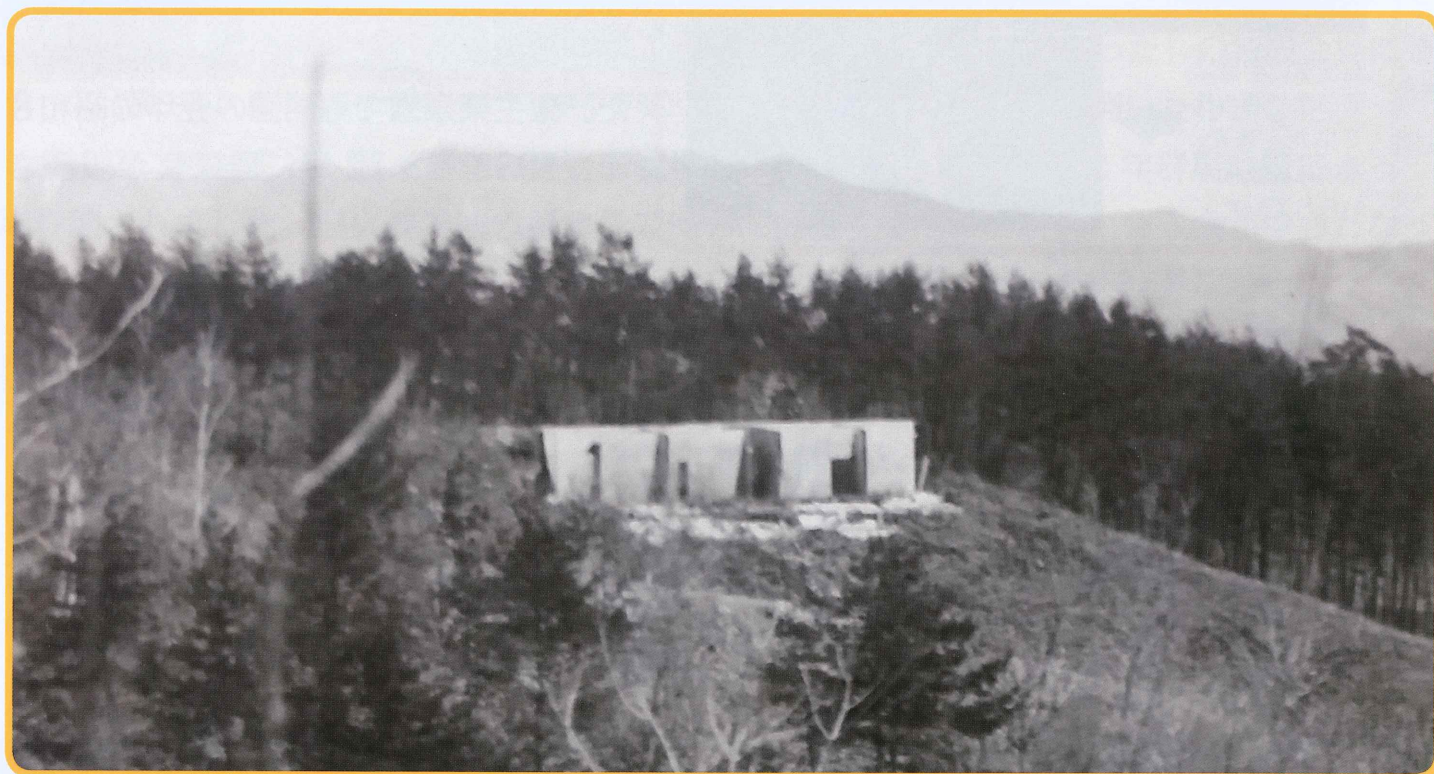
くりう

No.11

2017.9

KURIU

倒壊前の重監房の写真を発見しました。



【新たに発見した特別病室（重監房）の写真】

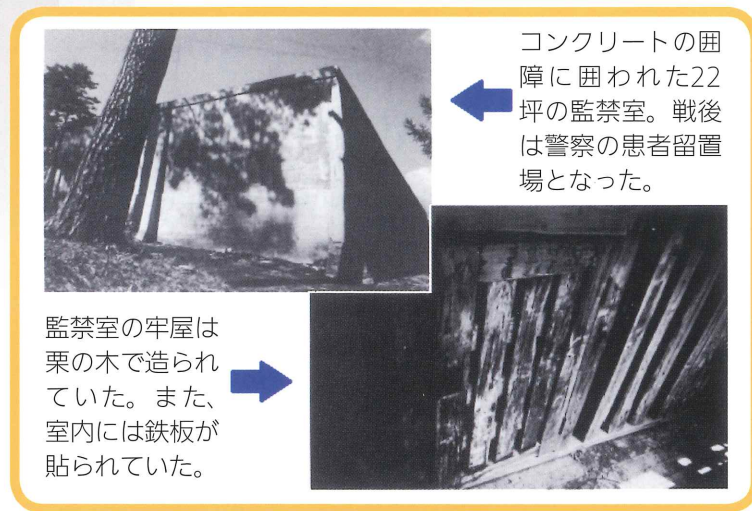
当館は、今年行った調査で倒壊する前の特別病室（重監房）の写真を発見しました。これまで部分的な画像は確認されていましたが、全体を捉えた写真が見つかるのは初めてのことです。

新たに発見した写真は、半分壊れているものの、ほぼ全体像が確認できます。「全景写真は無い。」と言われていただけに、極めて重要な一次資料として、壁の高さや厚み等をより正確に知るための手掛かりになるものと期待され、現在この写真の分析を鋭意進めております。

劣化が進んでいるため、実物写真の一般公開は出来ませんが、複製したレプリカは、来年度中にも館内に展示すべく準備しています。

かつての患者監禁室に関する企画展を開催しました。

当館では、平成29年7月19日(水)から8月13日(日)までの約3週間にわたって、企画展「それは百年前に始まったーハンセン病療養所の監禁室パネル展ー」を開催しました。今年にはハンセン病療養所に最初の監禁室が設置されてからちょうど100年に当たります。



【栗生楽泉園にあった監禁室】

大正6年(1917年)、前年に懲戒検規程が制定された事を受けて、多摩全生園(東京)、外島保養院(大阪)、菊地恵楓園(熊本)に設置されたのを皮切りに他の園にも続々と設置されて行きました。栗生楽泉園でも開園の翌年の昭和8年(1933年)12月に監禁室が設置されました。

100年という節目の年を迎え、ハンセン病に対する偏見・差別の歴史を今一度振り返るとともに、その歴史を今に伝えてくれる歴史的建造物等の保存についても考える機会にしたいと思い、開催する運びとなった次第です。

今回の企画展はマスコミ各社からも注目されることとなり、おかげさまでたくさんの来館者を迎えることができました。ちょうど夏休み期間と重なったこともあって、多くの子どもたちにもみていただくことができました。

これからも定期的に企画展を開催し、ハンセン病をめぐる差別と偏見について正しい知識の普及啓発を続けてまいりますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、今回の企画展開催にあたり、全国の国立・私立療養所の入所者自治会の皆様、園長以下療養所職員の皆様、ならびに地域の皆様から惜しみないご協力を賜りました。

ここに深く御礼申し上げます。



【企画展の様子】

楽泉園の監禁室で使われた鍵が見つかりました。



【栗生楽泉園で実際に使用された監禁室の鍵】

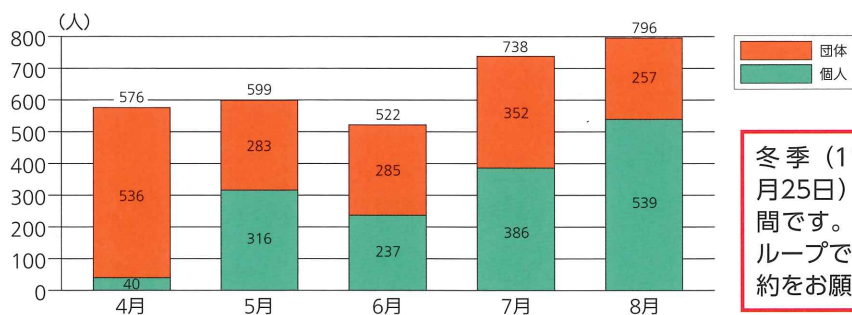
このたび栗生楽泉園の監禁室で実際に使われていた鍵が見つかりました。監禁室とは、かつて全国のハンセン病療養所にあった患者の懲罰施設で重監房とは別の物です。

今年の7月に未整理の資料を調査中に発見し、本物に間違いのないとの確証を得ましたので、急遽開催中だった企画展「それは百年前に始まった」の特設会場に展示し、広く一般公開いたしました。

楽泉園の監禁室は、戦後警察の患者留置場として使用され、昭和52年群馬県警によって取り壊されました。旧火葬場跡の慰霊碑の傍らに位置するその場所は、盲人会が中心となって「つつじ公園」として整備され現在に至っています。

【平成29年度 来館者統計】

平成29年8月31日現在



冬季（11月16日から4月25日）は団体専用期間です。5名様以上のグループで事前にネット予約をお願いします。

平成29年度入館者数
延べ 3,234人
一日平均 24.5人
開館以来延べ 24,784人

ホームページアクセス数
平成29年度 22,030回
開館以来延べ 123,928回

お客様の声（来館者アンケートより抜粋）

- ◎ I was very sad, when I was seeing there.
(私はこれを見て、とても悲しい気持ちになった。)
(千葉県、15歳・学生、女性)
- ◎ いろいろ分かった。自分の国と良く似ていた。友だちや家族に伝えたい。南アジアでもこの話しをしたい。
(南アジア、31歳・不詳、男性)
- ◎ 埼玉県和学校では、あまり学ぶ機会が少なく、とても驚いた。もっと広めても良さそうだが、まだ差別があるのか・・・と考えさせられる。
(埼玉県、32歳・会社員、男性)
- ◎ 沖縄差別、部落差別、異文化差別、障がい者や高齢者への差別なども根はハンセン病差別と同じと思った。
(兵庫県、45歳・教員、女性)
- ◎ 2回目の訪問。初めて訪れた時から強い衝撃を受け心が重たくなった。もっと草津の観光名所という位置付けを活かし、もっと多くの人に知ってもらわなければならない。
(前橋市、49歳・看護師、女性)
- ◎ 人類に差別意識は必ずあり、絶えることはないと思う。無くす努力はして行くつもりだが・・・。
(東京都、65歳・無職、男性)
- ◎ 無知は、時として罪であると感じた。
(群馬県、32歳・医師、女性)

【この他にも、多くの皆様からご感想をお寄せ頂きました。有難うございました。】

栗生楽泉園の社会交流会館に常勤の学芸員が配属されました。



【古い引湯管の位置を示す内務省の杭と干川学芸員】

平成29年8月1日付で国立療養所栗生楽泉園の社会交流会館に、常勤の学芸員として干川（ほしかわ）学芸員が着任しました。社会交流会館で展示されている古い生活用具等、栗生楽泉園の歴史資料を通して、見学者のハンセン病に対する理解を促し、人権尊重についての普及啓発活動を行うとともに、当館とも連携してハンセン病問題の歴史調査と研究を行います。

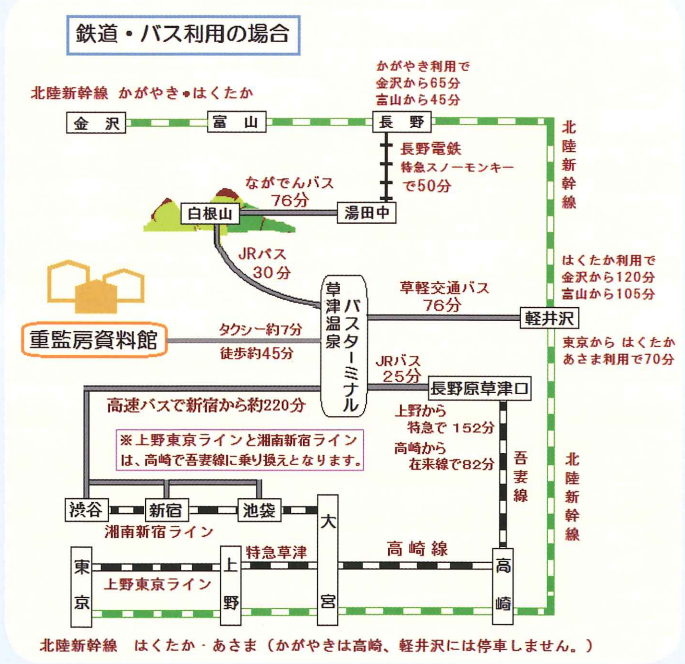
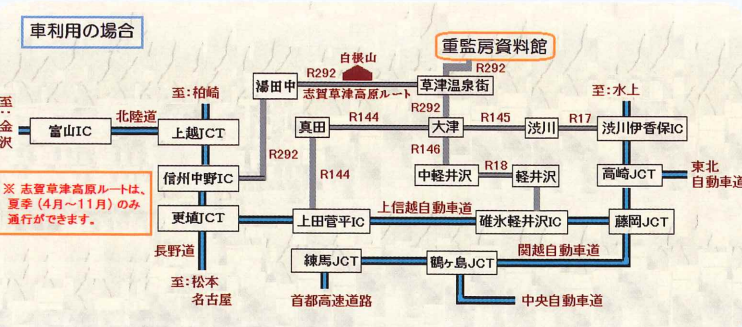
社会交流会館の展示室には、かつて「湯之澤区」と呼ばれた楽泉園の前身ともいえるべきハンセン病患者達によって形成された集落の歴史も紹介されています。

また学芸員が常駐することになったため、4月26日から11月14日の間（休館日を除く）は居住区域と療養区域以外にある園内史跡もご見学が可能となりました。ご希望の方は、予約又は受付の際にお問い合わせください。

ご利用案内・アクセス 入館料…無料

※個人見学は、4月26日から11月14日の期間となりますのでご承知おきください。

区 分	フルオープン期間 (4月26日～11月14日)	団体専用期間 (11月15日～4月25日)
受付対象	個人及び団体	団体・学校 予約のみ
開館時間	午前9時30分～午後4時00分 (最終入館 午後3時30分)	午前10時00分～午後3時30分 (最終入館 午後3時00分)
休 館 日	毎週月曜日（祝日の場合は翌日）・ 国民の祝日の翌日・年末年始・館内整理日	



重監房資料館だより「くりう」第11号【季刊】

発行日：平成29年（2017年）9月1日／企画・編集・発行：重監房資料館

〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根464-1533 TEL：0279-88-1550 URL：http://sjpm.hansen-dis.jp/

重監房資料館はハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指して国（厚生労働省）が設置した国立の資料館で入館は無料です。

